

第1学年 中学校国語科学習指導案

令和2年12月17日(木)

那覇市立松城中学校 1年 2組 31名

指導者 仲地 孝子 ㊦

1 単元名・教材名

単元名： 職場体験講話から得た職業観を通して「将来の夢」を伝えよう
～Webを活用した小6との交流活動をとおして～

教材名： 話し合いで理解を深めよう（東京書籍「新編 新しい国語」）

2 単元の目標

- (1) 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕(1)ウ
- (2) 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)イ
- (3) 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ウ
- (4) 学習課題に関心を持ち、グループでの話し合いに粘り強く取り組み、自分の考えを伝えようとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 単元について

(1) 教材観

近年、ネット上でのコミュニケーション手段の普及の影響もあり、相手の話しを受けずに短い言葉で、一方的に自分の思ったことを発するような会話が、若い世代の間で広がってきているように思われる。生徒たちがこれから歩いていく社会生活の中には、地域社会、組織など人との関わりの場において、自分の考えを話したり、相手の意図するところを聞いたりしながら伝え合う能力が必要とされる。そこで、将来社会生活を営むうえで必要な資質・能力である、「相手の考えを受けて話す技能」を身に付けさせていく学習活動を行う。

この単元では、1学年の「話し合いで理解を深めよう」体験から情報や考えを整理し、自分の考えを他者に効果的に伝え合うという「話す・聞く」の場面を設定する。教材として、生徒が主体的に考えて話すために、将来へ期待をもたせるよう、学びを自分ごととして考えさせることが有効であると考え。そこで、「働く意義や学ぶ意義」の視点を捉えた「総合的な学習の時間」に行われた、職場体験講話を用いる。その講話から得たことを、グループで話し合い理解を深め、将来の夢を伝えることを通して、将来を見据えた自己の生き方・あり方を考えることに繋げていきたい。

(2) 生徒観

令和2年度11月実施の「学びの確かめ」の結果において、「話すこと・聞くこと」（話し合いの内容や展開をとらえる）の正答率が65%と高く県の正答率を上回っているが、「話すこと・聞くこと」（相手の意見に関連づけて根拠を示しながら述べる）問題においては、正答率が45%程度に留まっており、根拠に関連づけて伝えることに対して、苦手意識を持っている生徒が多い。また、国語のアンケートより、①「人前で話すことは好きですか」（好き：まあまあ好き60%）②「授業（特活、道徳を含む）の中で、意見を伝え合うことは、これから将来、社会生活を送るときに役立つと思いますか」（思う・まあまあ思う100%）③「授業の中で、自分の考えを伝えたりできていると思いますか」（思う・まあまあ思う71%）と将来の社会

生活をイメージしながら、人との関わりを通して伝え合うことは必要であると必要性を高く感じているが、上手く伝えられていると感じている生徒が70%に留まっている課題もみられた。国語の授業や学級の中での生徒たちの話し合い活動の様子からは、協力して声をかけ合いお互いの立場を尊重し、関わりながら伝え合う良い学級の雰囲気がある。生徒たちの良い部分を活かしながら、社会生活をイメージさせ自分の考えを分かりやすく伝える力を育んでいく。

(3) 指導観

新学習指導要領中学校国語目標には「社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける」視点が新しく位置づけられ、国語の授業において、言語生活を豊かにし社会生活へつなげていく力の育成が求められている。生徒たちがこれから歩いていく社会生活の中には、地域社会、組織など人との関わりのある場において、自分の考えを話したり、相手の意図するところを聞いたりしながら伝え合う能力が必要とされる。これまでの話し合い活動では、自分の意見を話すことはできても、相手を意識して話したり、聞いたりすることが苦手な様子が見られた。また、自分の考えを豊かな表現で書いても、分かりやすく話すことには苦手意識を持っている生徒も多い。

そこで、本単元の学習指導において、相手意識や目的意識を持たせた交流活動の手立てを明確に示していく。課題に対して自由に考えを出し合う発想法ブレインストーミングや、カードによるグルーピングで意見や考えを整理する方法 KJ 法をもって、話し合い活動を展開していく。

また、小中の系統性を明確にしながら学びをつなげていくことが必要であると考え、中1と小6の異年齢交流の場を設定する。学習指導要領により、小中とのつなぎの部分において、自分の伝えたいことを相手に伝えるために、小6の「事実と感想と、意見を区別する」から中1の「事実と意見との関係などに注意して話の構成を考える」ところの小中とのつなぎの部分の違いに留意し、指導を行っていく。中1が自分たちの伝えたことに対して小6からフィードバックをもらい、再構成を行う言語活動を位置づけた。それによって中1には、言葉を通して異年齢に合わせて分かりやすい言葉を探したり、伝える内容を精選したりする力が育まれる。その際、中学生には自信をもって伝えることができるよう、小学生の児童においては、上級生との関わりを成長へつなげていけるようにする。教材だけにとどまらず、これからの社会生活へつなげていけるよう伝え合う力の育成の支援をしていきたい。

(4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語彙や語句を豊かに使い、相手に分かりやすく伝えている。(1)ウ ②意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア	①「話す・聞くこと」において、体験から材料を整理し、事実と意見との関係などに注意して、自分の考えや根拠が明確になるよう伝えている。A(1)イ ②「話す・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。A(1)ウ	①自分の将来や社会生活へつなげるようグループでの話し合いに参加し、学習課題について自分の考えを伝えようとしている。

(5) 指導と評価の計画（全7時間）

次	主たる学習活動	指導上の留意点	関連事項	評価規準 評価方法		
1	○本単元の学習内容に見通しをもつ。将来の社会生活をイメージして、伝え合う場面について考えることができる。 ・カードによるアイスブレイキングを行う。(グループ) ・話し合いの工夫についてグループの話し合いの見通しを持つ。	・学習の進め方を考えることができるように話し合いの工夫を確認しながら、教師がモデルを示す。	・小学校6年時の発表や、中1の朝の会で行ってきた1分間スピーチについて振り返る。	知	思	主 ① 観

2	○自分の考えと相手の考えから相違点や共通点をみつける。 話し合い活動を工夫した「三角ロジック」を使って論理的な「伝え方」をすることができる。 ・「働くときに大切なこと」について意見を出し合い、KJ法を用いて、意見を出し合いまとめる。 ・講話内容より写真や記事の選択を行う。 (授業の様子) 	・「総合的な学習の時間」での学習や講話を振り返えさせる。その中から小6へ伝えたい内容や項目を個人で選び、さらにグループ内で根拠を示しながら発表させる。 	・「総合的な学習の時間」で作成した「将来の職業調べ」の資料を基に考えや意見をまとめる。 	② ワ	① ② ワ・観	① 観
3・4	○情報の中から、伝えたい内容をグループで話し合い、資料を作成することができる。 ・自分の考えや根拠が明確になるように、事実と意見との関連付けを明確にしながら意見を出していく。 ・「私たちが伝えたいベスト3」について意見を出し合い、KJ法を用いてまとめて、記事を作成する。 ・タブレットでの写真の貼り付け、分かりやすいレイアウトの作成。 	・相手意識、目的意識の確認を行う。 ・話し方の工夫に関する「話す・聞く」領域において小6と中1との違いを考えさせる。 	・「総合的な学習の時間」での職業人講話のメモやインタビュー内容、写真等を使用する。 	② ワ	① ② ワ・観	① 観
5	○グループごとに小6へ相手意識や目的意識を持って、伝え合うことができる。 ・小6と中1の各グループをZOOMでつなぎ、作成した記事をタブレットを使いながら発表を行う。 ・話し方の工夫を確認しながら発表する。 (授業の様子) 	・伝える相手小6に分かりやすくつたえるよう工夫を促す。小6からのチェック表を示してもらい、それを基に振り返りの視点を示していく。 	・小6は「話し手の考えと比較しながら、考えをまとめる」の項目に沿って行う。チェック表にて、発表を聞いての感想を書く。 	① 観	② ワ・観	① 観
6	○伝えた相手から（小6）からのフィードバックを行う。 ・フィードバックした点を練り直し、記事や伝え方の再構成を行う。 ・タブレットで、自分の伝えている様子を録画してフィードバックを行う。 (授業の様子) 	・前時のチェック表から、良かった点、上手く伝わらなかった点を各グループで話し合い再構成の視点を促す。 			① ワ・観	① 観
7 本時	○「職業体験講話から得た職業観を通して「将来の夢」を発表することができる。 ○小6と中1の教室全体が映るようにZOOMでつなぎ全体場で各グループ発表する。 ・話し方の工夫を確認しながら発表する ・単元の振り返りを行う。	・小6からのチェック表や感想を受け再構成を行ったところを明示しながら発表させる。 ・振り返りを発表。	・小6は5次と比較しながら、どう変わっているかを確認しながら聞き、発表時の感想を書く。	① 観	② ワ・観	① 観

(7-7) 本時の指導

職場体験講話から得た職業観を通して「将来の夢」を伝えよう。

- (1) 目標 「職場体験講話から得た職業観を通して「将来の夢」を発表することができる。
- (2) 授業仮説 ・自分の考えを伝える場において、相手からのフィードバックをもとに再構成を行い発表することによって、相手意識や目的意識を明確にした伝える力が身につくであろう。

(3) 本時の評価規準

評価の観点	〔思考力, 判断力, 表現力〕 A (1) ウ 〔知識及び技能〕 (1) ウ 〔学びに向かう態度〕 ①
評価規準	・相手意識、目的意識を明確にしながら、情報を整理し、伝え合う内容や構成を工夫しながら発表している。
評価方法	ワークシート・観察

(4) 本時の展開 (第7時)

過程	学習活動・形態	言語活動に関する指導上の留意点	具体的な評価規準と評価方法
導入 (5分)	(小中 13:30～ZOOM スタート) 【13:30～13:35】(5分) (1) 小中一斉に児童生徒、それぞれの本時の学習活動を確認する。	○小中 ZOOM で一斉につながっているかを確認。 ○小中の児童生徒に本時の目標や学習の流れを確認し、見通しを持たせる。	
	(中1: 本時の学習目標)・小6の教室全体を WEB (ZOOM) でつないで発表しよう。 ・職場体験講話から得た職業観を通して「将来の夢」を伝えよう。		
展開 (35分)	【13:35～14:10】(35分)準備を含む。 (1) 相手からのフィードバックをもとに再構成を行い発表する。 ・1グループ発表(5分) ・2グループ発表(5分) ・3グループ発表(5分) ・4グループ発表(5分) ・5グループ発表(5分) ・6グループ発表(5分) ・7グループ発表(5分)	○小中 ZOOM で一斉につながっているかを確認する。 ○5 次の各グループでの発表時、小6からのフィードバックをもとに、再構成をした箇所の確認を促す。 ○各自グループ発表終了後の振り返りチェック表の記入の声掛けをする。 ○全体の様子を観察しながら、声かけをしていく。	【思】 A(1)ウ ○相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように構成を工夫しながら表現している。(ワークシート・観察) 【知】 (1)ウ ○相手に分かりやすく伝わる構成を理解している。(ワークシート・観察) 【態】 ① ○グループで協力しながら自分の考えを伝えようとしている。(観察)
終末 (10分)	6・小6、中1、ワークシートにて振り返りを記入し提出する。 (2～3人程度感想を話す)	(小6)チェック表にて、中1の発表を聞いての感想や意見を書く。 (中1)今日の発表を通して振り返りを行う。	【態】 ① ・本時の学習を振り返り、次の単元へつなげようとしている。(ワークシート・観)

(5) 板書計画

振り返り	発表の工夫 ・声の大きさ ・態度、話し方 ・内容・構成の仕方 ・主張・意見・根拠との関連	発表内容 ・講話内容 ・伝えたいベスト3 ・教科との関連 ・将来の夢 ・社会生活へつなげていく伝え合う力	学習のめあて ・職場体験講話から得た職業観を通して「将来の夢」を伝えよう。	職場体験講話から得た職業観を通して「将来の夢」を伝えよう
------	--	---	--	------------------------------